

「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラムの工夫・改善
 — 各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用 —

熊谷市立三尻中学校

1 主題設定の理由

現行学習指導要領の基本方針として「各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」が示されている。教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを推進するためには、教科等の目標や内容を見通し、教科等横断的な学習の充実を図ることが求められているのである。熊谷市においては、「学力日本一」を目指し「新熊谷プロジェクト」を推進している。「新熊谷プロジェクト」では、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、教科横断的でオーセンティックな授業実践を通して、学力向上を目指しているところである。

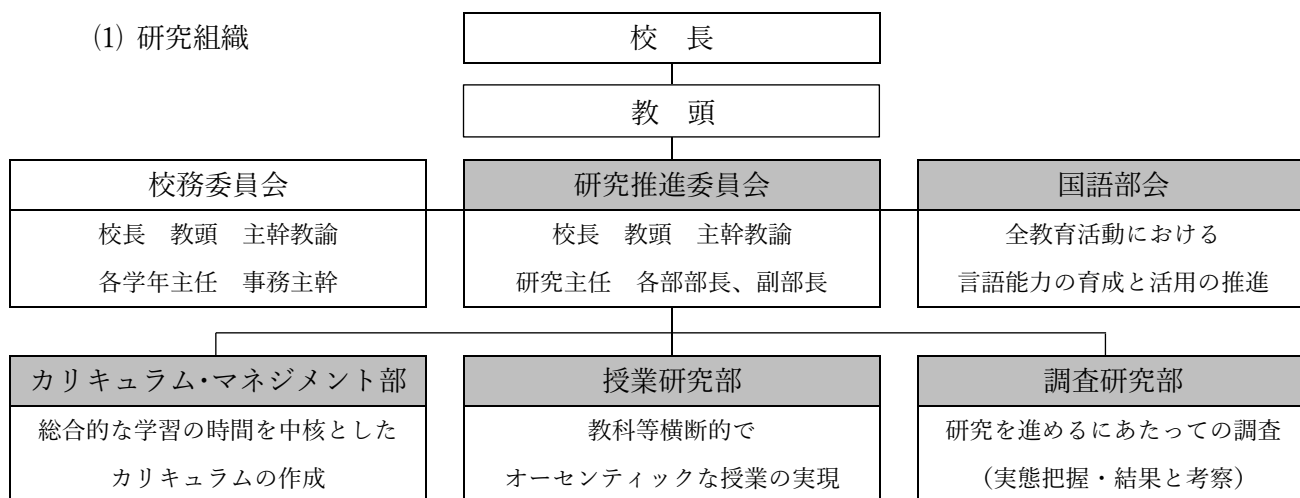
そこで本校では、県教育委員会から「授業時数の弾力化に係るモデル校事業」の指定を受け、本研究主題「『総合的な学習の時間』を中核としたカリキュラムの工夫・改善」を設定した。今年度実施の全国学力・学習状況調査の結果からは、実施教科共通で「自分の考えを筋道を立てて記述すること」が課題として挙げられた。本校の実態を踏まえ、副題として掲げた「各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用」に重点をおき、研究を推進していくものである。

2 育成する資質・能力

- (1) 探究課題を自ら設定し、情報を集め、整理分析して、まとめ・表現することのできる力
 (主に総合的な学習の時間で育成する能力)
- (2) 教科等横断的な、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」
 いわゆる汎用的能力（総合的な学習の時間を中核として、教科等横断的に育成する能力）
- (3) 各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力
 (国語科の学習を土台として、教科等横断的に育成する能力)

3 研究の内容

(1) 研究組織



(2) 研究の概要

① 総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムの作成

ア 総合的な学習の時間のカリキュラムの作成

総合的な学習の時間を「未知のものを探究する時間」と捉え、「未知(みしり)タイム」としてカリキュラムの見直しを行った。「未知タイム」の探究課題については、3年間を通して「熊谷」をテーマ(表1)として設定した。さらに、「探究的な学習の過程」を意識し、各学年の年間指導計画(図1)を作成した。

表1 「未知タイム」3年間の探究課題

1年生	「熊谷ってどんなところ？」
2年生	「新しい熊谷を創るには？」
3年生	「どのように熊谷で生きる？」

令和5年度『未知タイム』年間計画(1学年)

学期・月	学習内容	学習活動		
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ○防災学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間について知る。 ・非常用持ち出し袋の中身を決め、用意する。 ・緊急対応ハンドマニュアルを作成する。 	
	5	○スキルを高めよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル学習サイトを用いて、問題に取り組む。 ・ネットリテラシーに関する講演会を聞く。 ・思考ツールの使い方を知る。 	
	◎様々な視点から熊谷を学ぼう			
	6	○暑さ対策日本一を目指そう。	<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷の暑さとその対策の現状を知る。 課小5・6① ・暑さをしのぐ方法を調べる。 情小5・6④ ・グリーンカーテンの栽培を行う。 整小5・6⑧ ・グリーンカーテンの有用性と改善点をまとめる。 ほ小5・6⑬ 	
	7	○熊谷・地域を知ろう。 ～私たちの街は住みよい街?～	<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷について知りたいことを挙げる。 課小5・6② ・「熊谷市総合振興計画」を読み取る。 情小5・6④ ・熊谷の読み取ったことと他市町村を比較する。 整小5・6⑤ ・調べたことをグループで発表する。 ほ中1① 	
	9	○防災学習	・地震や台風など、災害時の対処の方法を知る。	
	後期	10	○熊谷をPRしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・PRポスターを比較し、PRする要素を決定する。 課中1① ・ポスターで使用するための情報を収集する。 情中1③ ・PRするにはどのような表現が適切か分析する。 整中1⑦ ・熊谷をPRするための広告を作成する。 ほ小5・6⑫
		◎熊谷と川越は何が違う?～地域文化を学ぶ・地域文化に触れる・地域文化を比較する～		
		11	○川越を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・HP等を見て、川越について知りたいことをあげる。 課中1② ・「第四次川越総合計画」を読み取る。 情中1④ ・情報を分析し、校外学習の班別行動計画を立てる。 整小5・6⑦ ・校外学習新聞を作成する。 ほ中1⑬
		12	○川越と熊谷を比較しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷と川越で比較したい分野を挙げる。 課中1② ・川越と熊谷の数値や具体的事例を集める。 情中1② ・集めた情報を比較し、熊谷の発展すべき分野を考える。 整中1⑧ ・調べたことをグループで発表する。 ほ中1⑩

図1 「未知タイム」1年生の年間指導計画(案)

イ 教科等横断的なカリキュラム構想表の作成

「未知タイム」の指導計画において、各教科等との関連があるものを見出すため、全教科の年間指導計画が一覧できる表（図 2）を作成した。これを、「未知タイム」を中核としたカリキュラムを作成する際に、特定の教科の単元や教材の順を入れ替えるための資料とした。「未知タイム」で扱う時期に合わせて、その指導事項を教科で扱うことができたり、「未知タイム」の中でその指導事項を扱うことができたりするカリキュラムとなるよう、教科における従来の年間指導計画を変更した。

		6月	7月	8・9月	10月
学校行事		修学旅行（3年） 生徒総会 学校総合体育大会予選 職場体験（2年）	夏休み	前期期末テスト 新人大会市予選	SUN フェスタ
学年行事					
「様々な視点から熊谷を学ぼう」					
総合的な 学習の時間	○ 暑さ対策日本一を目指そう。	○ 熊谷・地域を知ろう。 ～私たちの街は住みよい街？～	○ 熊谷をPRしよう。		
	課 熊谷の暑さとその対策の現状を知る。 情 暑さをしのぐ方法を調べる。 整 グリーンカーテンの栽培をする。 ま グリーンカーテンの有用性と改善点をまとめる。	課 熊谷について知りたいことを挙げる。 情 「熊谷市総合振興計画」を読み取る。 整 熊谷と他市町村を比較する。 ま 調べたことをグループで発表する。	課 PR要素を決定する。 情 情報を収集する。 整 表現の適切さを分析する。 ま PR広告を作成する。	○ 防災学習 災害時の対処方法を知る。	
国語 【教育出版】					広告の情報を考える（10月頃）
書写 【教育出版】					
社会	地理 【東京書籍】				
	歴史 【東京書籍】				
数学 【啓林館】	7章 データの分析と活用（2月頃）				
理科 【東京書籍】					
外国語 【光村図書】					

図 2 1年生の単元配列の変更

ウ 授業時数の弾力化

「未知タイム」を充実させるため、来年度、文部科学省の「授業時数特例校制度」（図3）を活用し、各教科の授業時数を変更（表2）する。これにより、特定の教科における指導事項を「未知タイム」の中で扱うことができるようになる。



図3 授業時数配分弾力化のイメージ（文部科学省）

表2 1年生の授業時数の変更

教科等	標準授業時数	増減	変更後授業時数
国語	140	-10	130
社会	105	-2	103
数学	140	-2	138
理科	105	-2	103
外国語	140	-2	138
総合的な学習の時間	50	+18	68

② 教科等横断的でオーセンティックな授業の実現

ア オーセンティックな課題事例集の作成

「オーセンティックな授業」とは、今現実の社会で実際に起きている事象や問題を学校教育の場で取り上げ、その問題解決に向けた実践的な思考や行動を身につける学習を取り入れた授業である。生徒たちは身近で実際に起こりうる状況や場面を想定することで、「なぜこの教科（単元）を学ぶのか」ということを考え、学習の必要性を実感することができる。本研究において、教員にとって各教科間のつながりを意識する必要があるため、授業で設定できそうな「オーセンティックな課題」（図4、図5）を考え、事例集としてまとめた。

イ 授業研究会の実施

教科等横断的でオーセンティックな授業の範例として、授業研究会を行った。

中2 国語科 「よりよい結論を導く討論をする」

〔思考力・判断力・表現力等〕 A 話すこと・聞くこと

(1) イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。

総合的な学習の時間「探究的な学習の過程」【まとめ・表現】との関連

課題事例（案）

学年	教科	単元名
第3学年	社会科（公民）	現代の民主政治 選挙の課題と私たちの政治参加
目標	選挙と国民の政治参加との関連について、「模擬選挙」の活動を通じ、現代社会にみられる課題の解決に向けて、主体的に社会に関わろうとしている。（態度）	

1. 学習課題

生徒会選挙を例に、投票をする際に大切にしたいことはなにか考えよう。

● 授業の展開

導入	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会選挙における候補者の主張の共通点と相違点を比較する。 ・主張の違いから、理想の政治は個人によって違うことを認識する。 ・国政選挙において投票をする際に、自分が重視したい「マイ争点」について、本時で考えることを知る。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「マイ争点」を2つ選ぶ。 ・選んだ「マイ争点」に対して、どのような政策を求めるかを考える。 ・「マイ争点」をもとに、各政党の政策を比較し、投票する政党を決める。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通じて、学習課題に対しての自分の考えをまとめる。 ・自分の考えを他者と共有し、学習課題に対する多様な考えに触れる。

○ ワークシート

『18歳へのステップ～選挙に参加しよう～』

- (1) あなたが大切だと思う争点は？(2つ)
- ①経済政策 ②社会保障 ③コロナ対策
④子育て・教育 ⑤外交・安全保障
⑥エネルギー・環境 ⑦憲法
⑧ジェンダー・多様性

- (2) (1)で選んだ争点を重視するのはなぜ？
また、それらの争点について、あなたは政治にどんなことを求める？

■マイ争点①「 _____ 」

■マイ争点②「 _____ 」

- (3) 学習課題に対する、あなたの考えは？

○ 活用する教材

- ・WEB サイト
NHK 選挙 WEB 各政党の公約(2022 参院選)
政治山 重点政策、公約比較表(2022 参院選)
- ・道具
投票箱（実際に使用されている投票箱）
投票用紙（実際に使用されているユポ紙）

2. 教科等・日常生活との繋がり

学年	教科等・行事	単元名・内容
全学年	特別活動（生徒会活動）	生徒会選挙

図4 オーセンティックな課題事例【社会科】

課題事例（案）

学年	教科	単元
第1学年	理科	いろいろな生物とその共通点
目標	自分の食べているものが、どんな生物かを知り、その共通点や相違点を見いだすとともに身のまわりの生物への意識を高める。(思・判・表)	

1. 本時の課題

給食の材料をたどると、どんな動植物にたどりつくだろうか？

● 主な教育活動

① 植物の分類、動物の分類について確認する。

被子植物 裸子植物 双子葉類 単子葉類
セキツイ動物 無セキツイ動物 魚類
ホニュウ類



② 昨日自分たちが食べた給食の中にどんな生物が入っているか、献立表を見ながら確認する。

例) パン → 小麦 → 被子植物 単子葉類
アジフライ → セキツイ動物 魚類
ゴーヤ → 被子植物 双子葉類

イカ → 無セキツイ動物 → 軟体動物 ブタ → セキツイ動物 → ホニュウ類
カニ → 無セキツイ動物 → 節足動物 → 甲殻類

③ 普段食べている生物には、どんな共通点や相違点があるか、話し合い、発表する。

- ・植物は果実や種子を食べているから、ほとんど全て被子植物だろう。
- ・セキツイ動物は、両生類とハチュウ類は、あまり食べない。
- ・無セキツイ動物は、軟体動物がほとんど。
- ・海の生物は、食べられるものが多い。

2. 教科等・日常生活との繋がり

学年	教科等・行事	単元名・内容
全学年	特別活動（食育）	望ましい食習慣
第1学年	技術・家庭	日常食の調理

図5 オーセンティックな課題事例【理科】

③ 研究を進めるにあたっての調査（実態把握）

ア 先行事例の分析

総合的な学習の時間において、ゼミ形式を取り入れている寄居町立男衾中学校へ視察に行き、本校の年間指導計画作成の参考とした。また、総合的な学習の時間の授業時数を増加させるため、特例校制度を採用している戸田市立戸田東中学校とオンライン会議を行い、カリキュラム・マネジメントの考え方の参考とした。

イ 生徒・教員向けアンケートの作成と実施

生徒・教員の実態や今後の変化を捉えるためのアンケートを作成した。質問項目は、本研究における「育成する資質・能力」の内容である「探究する力」「教科等横断的な汎用的能力」「言語能力」を分析できるように考案した。Microsoft Forms を活用（図 6）し、分析をしやすい形で実施した。

学習についてのアンケート

* 必須

総合的な学習の時間において
自分の活動を振り返って、当てはまるものを選んでください。

4. 総合的な学習の時間が好きだ *

そう思う

少しそう思う

あまりそう思わない

そう思わない

図 6 Microsoft Forms によるアンケート画面

④ 全教育活動における言語能力の育成と活用の推進

ア 校内研修の実施

「言語能力の育成と活用」という題で本校の田沼良宣校長による講義を行い、全職員が言語能力の育成と活用についての共通認識を持てるようにした。また、各教科等における言語活動の充実を推進するため、②のイで述べた授業研究会を行った。

イ 国語科を要とした各教科等における言語活動の充実

「未知タイム」における言語活動を充実させるため、総合的な学習の時間の「探究的な学習の過程」に国語科の指導事項（学習内容）を位置付けた表（別添資料）を作成した。また、国語科の学習内容をより意識して「未知タイム」の指導にあたるように、「未知タイム」の年間指導計画（図 2）の中にも表記した。なお、①で述べたカリキュラム作成とも関連しており、この内容により、各学年の国語科 10 時間分を総合的な学習の時間に変更（表 2）している。

4 研究の成果と来年度への展望

今年度の研究は、来年度への準備という位置づけであった。その中で作成したものを成果として捉えている。

- | | |
|-----------------------------|------------|
| ・総合的な学習の時間「未知タイム」年間指導計画 | ・カリキュラム構想表 |
| ・オーセンティックな課題事例集 | ・アンケート |
| ・各教科等における「探究的な学習」で活用する言語能力表 | |

また、アンケートの結果（図7、8、9）を分析し、生徒・教員の実態を把握することができた。

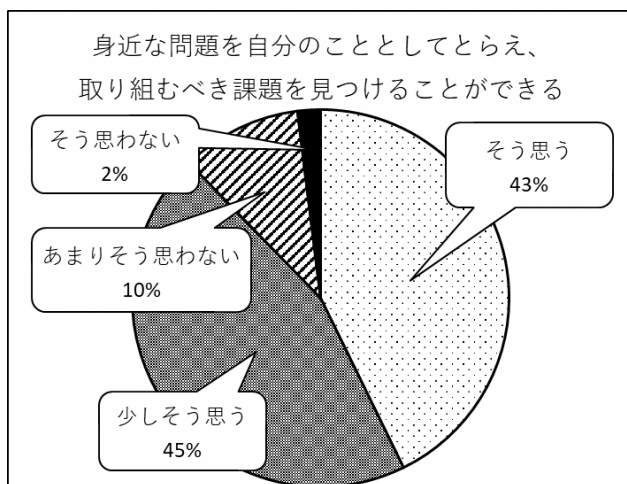


図7 生徒アンケート結果【探究課題の設定】

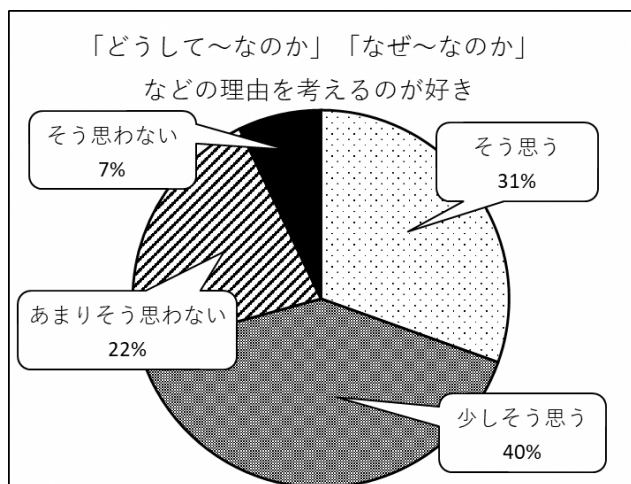


図8 生徒アンケート結果【学びに向かう力】

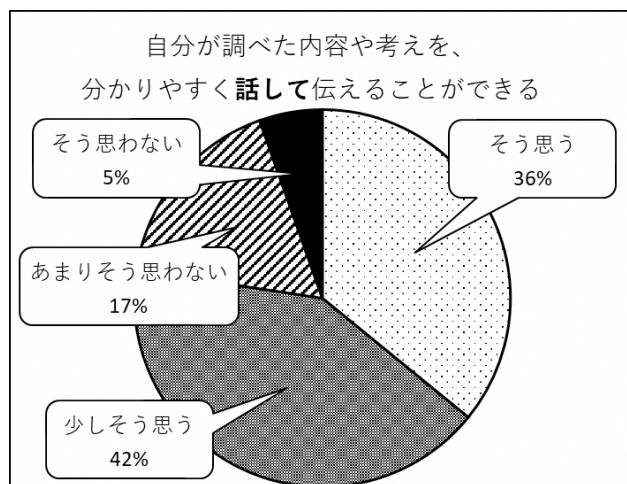


図9 生徒アンケート結果【表現】

一部の生徒は、教科等の学習を「自分事」として捉えられていない。その結果、物事の本質を捉えようとせず、深い思考に繋がっていないと考えられる。そして、その自らの思考を「自信をもって」他人にわかりやすく伝えられる生徒は3割程度である。本研究を進め、「教科等横断的でオーセンティックな授業」を実現することで、これらの課題を解決していきたい。

来年度は、今年度作成したカリキュラムを実施し、冒頭で述べた「資質・能力」を育成していく。また、実施する中で修正や改善を適宜行い、「新熊谷プロジェクト」のモデルとなる取組となるよう、研究を推進していく。